

令和2年度 鶴見区運営方針(素案)

【参考1】

【様式1】

(区長:長沢 伸幸)

◆計画

区・局の目標（何をめざすのか）

つながり、ふれあい、みまもり、支えあう、だれもが安心して暮らせるまち

区・局の使命（どのような役割を担うのか）

一人ひとりの人権が尊重され、だれもが自分らしく安心して暮らすことができるやさしさとぬくもりのある地域社会の実現にむけて、区内の実情や特性に即した施策・事業を総合的に展開する。

令和2年度 区・局運営の基本的な考え方（区・局長の方針）

・だれもが地域で健康に安心して暮らせるよう、すべての区民が、共に生き、共に支えあい、共に生活を楽しむ地域社会をめざして取組みを進める。

・地域で子どもたちが健やかに育ち、安心して子育てできるまちの実現に向け、子育てを応援する。また、子どもたちの未来が生まれ育った環境に左右されることなく、自分の可能性を追求できるまちをめざす。

・区民へ「まなびの場」が提供され、その成果が地域社会の活性化に活かされる社会をめざす。また、区民一人ひとりが自尊感情を大切にし、お互いを思いやり、支えあい、人権が尊重できる社会の実現をめざす。

・災害に強いまちをめざし、区民一人ひとりの防災意識を高めるとともに災害への備えを強化する。また、安全なまちをめざし防犯、交通安全の取組みを進める。

重点的に取り組む主な経営課題（様式2）

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題1 だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり】 高齢者や障がい者を地域で支える仕組みづくりなど、関係機関、団体等と連携しながら地域福祉力の向上を図る。また、区民の健康づくりに向けた支援に取り組む。	【1-1 地域共生社会の実現】 区社会福祉協議会、高齢者・障がい者を支援する関係機関や地域等と連携し「支え手・受け手」という関係を超えて、すべての住民が自分らしく活躍できる地域共生社会をめざす。

主な具体的取組（2年度算定見込額）

【1-1-1 地域福祉力の向上】(算定見込額 28,412千円)

住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業を進め、地域住民からの相談受付や、生活課題等の解決につなげる。

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題2 子育てを応援するまちづくり】 安心して子育てできるまちづくり、子どもたちがのびのびと健やかに育つことができるまちづくりに取り組む。	【2-1 安心して子育てできる環境づくり】 地域の関係機関や関係団体と連携し、保護者や子どもが交流・情報交換できる場の設定や相談支援の充実、子育て等に関する情報発信の強化、また、子どもの居場所の確保や学習支援など、安心して子育てできる環境づくりを進める。

主な具体的取組（2年度算定見込額）

【2-1-2 児童虐待防止対策】(算定見込額 11,672千円)

重大な児童虐待ゼロに向けた体制の充実を行う。また、要保護児童の早期発見に向け、安全確認ができない未就園児等の全戸訪問を行う。

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題3 まなびを応援するまちづくり】 「まなび」を通して地域社会を活性化するとともに、すべての区民が互いに人権を尊重する社会の実現に取り組む。	【3-1 まなびを通じたつながりづくり】 生涯学習推進員と連携し、主体的に生涯学習に取り組むきっかけとなるような学びの機会を提供する。また、人権啓発推進員と連携し、地域に根ざした人権教育、人権啓発の取組みを行う。
主な具体的取組（2年度算定見込額）	
【3-1-1 生涯学習】(算定見込額 2,723千円) 学習機会を提供する取組みとして、生涯学習セミナーや一日体験教室を実施するとともに、地域に根ざした生涯学習ルーム事業などの広報周知を行う。	
経営課題の概要	主な戦略
【経営課題4 安全なまちづくり】 安全なまちづくりをめざし、地域、関係機関、区役所が一体となって防災対策を進める。また防犯意識を高め犯罪を起しにくい環境づくりを進める。	【4-1 災害に強いまちづくり】 地域の自主防災力強化に向け、実践的な各種訓練等を充実するとともに、住民の防災意識の向上を図る。また、区災害対策本部の機能強化を図る。
主な具体的取組（2年度算定見込額）	
【4-1-1 防災意識の向上(自助)】(算定見込額 6,506千円) 区民の防災意識の向上を図ることはもとより、自助とその後の共助の重要性につながる意識向上に向けた出前講座や広報紙への掲載を行う。また、転入者には市民防災マニュアル等を活用した啓発を引き続き行う。	

「令和2年度以降の市政改革計画」に基づく取組等（様式3）	
主な取組項目	取組内容
主な取組項目	取組内容
主な取組項目	取組内容

◆自己評価

1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

--

解決すべき課題と今後の改善方向

--

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題1

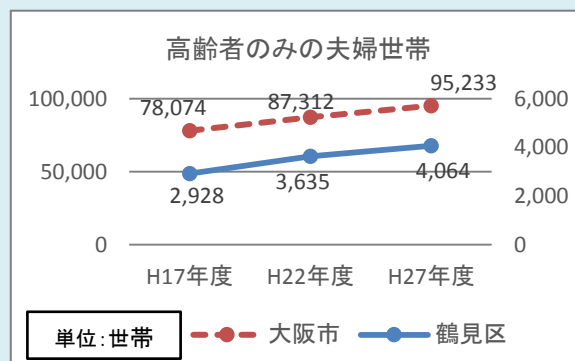
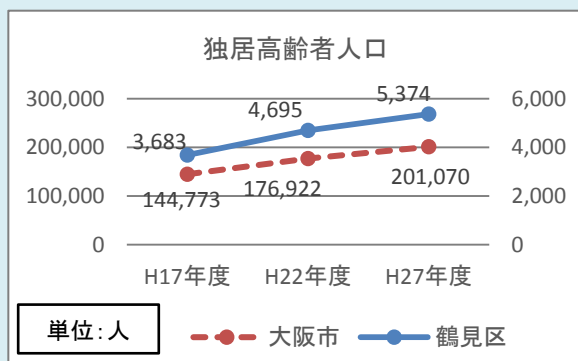
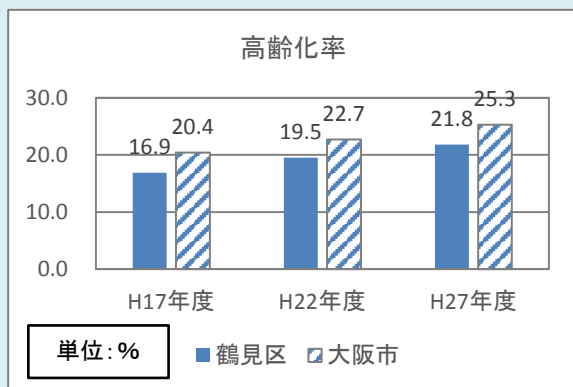
【だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり(地域福祉)】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

- ・だれもが地域で、健康で自分らしく安心して暮らし続けられる地域社会
- ・地域にかかわるすべての人が、共に生き共に支え合い、生活を楽しむ地域社会

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

◆国勢調査



◆鶴見区認知症高齢者数(平成31年4月1日現在)

◆鶴見区障がい者手帳交付者数(平成31年3月31日現在)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
認知症高齢者数 (在宅)	1,343	1,410	1,460	1,473	1,419
身体障がい者手帳 交付数	4,934	5,013	5,097	5,142	5,252
療育手帳交付者数	1,006	1,039	1,082	1,112	1,158
精神障がい者保健福祉 手帳交付者数	903	955	1,020	1,079	1,187

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・団塊の世代が65歳を迎え、鶴見区でも高齢者(65歳以上)や認知症高齢者(65歳以上の認知症を発症している人)が増加してきており、老老介護、孤立死、認知症による徘徊、虐待など、地域の福祉課題は多様化、複雑化、深刻化している。
- ・障がい者手帳の交付数は年々増加している、障がい者への者支援は生活全般にわたるものであり、障がいの種別に応じてニーズも多種多様である。
- ・認知症高齢者が増える中で、認知症についての正しい理解の普及が十分だとは言えない。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉ネットワークが効果的に機能し、高齢者や障がい者の相談支援体制が整備され、地域や地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センターなどの関係機関との連携が緊密に図られることなどにより、地域包括ケアシステムの構築にもつなげていく必要がある。 ・地域で安心して暮らせるよう、地域で暮らし、働き、学ぶ人々への「高齢者や障がい者に対する正しい理解の普及」が必要である。

自己評価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 1-1 【地域共生社会の実現】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
	高齢者や障がい者を含めだれもが自分らしく安心して暮らしていると感じる区民を増やす。	区社会福祉協議会、高齢者・障がい者を支援する関係機関や地域等と連携し「支え手・受け手」という関係を超えて、すべての住民が自分らしく活躍できる地域共生社会をめざす。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 困った時（いざという時）に助けてくれる人がいると感じている区民の割合：令和2年度末までに50%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須		
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	A：順調 B：順調でない				
戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない				

30決算額 31,933千円 元予算額 28,412千円 2算定見込額 28,412千円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	○住民の身近な相談窓口となり、必要に応じて関係機関との連携を図る。 ・各地域に地域福祉コーディネーター（つなげ隊）を配置。 ○「つなげ隊」と個別にヒアリングを行い、区政会議でいただいた意見等をつなげ隊に伝えるとともに、各地域ごとの状況を聞き、連携強化について検討する。 ○つなげ隊へのアドバイスやスキルの向上、情報の提供など、総合的な地域福祉推進に係るコーディネートをおこなう。 ・専門的知識等を有したコミュニティソーシャルワーカーを配置。 ○住民同士の助け合い活動の支援、並びに地域資源の発掘、育成を図る。 ・地域有償ボランティア活動の実施		・つなげ隊が対応した「地域住民等からの相談」件数：2,000件/年以上 ・地域有償ボランティア活動にかかる派遣数：1,000件/年以上 【撤退・再構築基準】 ・つなげ隊の相談件数が年間1,800件未満の場合は事業を再構築する。 ・地域有償ボランティア活動の派遣数が年間900件未満の場合は事業を再構築する。
			前年度までの実績
			【令和元年度実績】 ・地域の福祉課題に関する相談窓口として、地域福祉コーディネーター（つなげ隊）を各地域に配置（12名）。 相談件数：900件/年（9月現在） ・コミュニティソーシャルワーカー3名配置（区内）による、各地域での地域福祉活動や、地域福祉コーディネーターへの支援。 ・地域有償ボランティア派遣数：401名（9月現在）

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

30決算額 10千円 元予算額 20千円 2算定見込額 20千円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座の開催支援及び広報随時 高齢者への理解を深めるため認知症講演会等の開催 1回 障がい者支援関連事業所の研修会・講習会等の開催 1回 認知症に関する多職種連携グループワークを開催 1回 		<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座受講者数:500人 高齢者や障がい者に対する理解を深めたと回答した講演会等参加者の割合:70%以上 <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座受講者数が前年度を下回った場合は事業手法を再構築する 上記目標達成が50%未満であれば事業手法を再構築する
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性		
ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)			
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		
戦略に対する取組の有効性		ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

重点的に取り組む主な経営課題

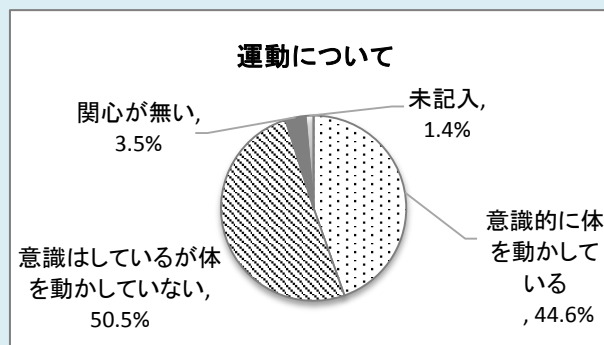
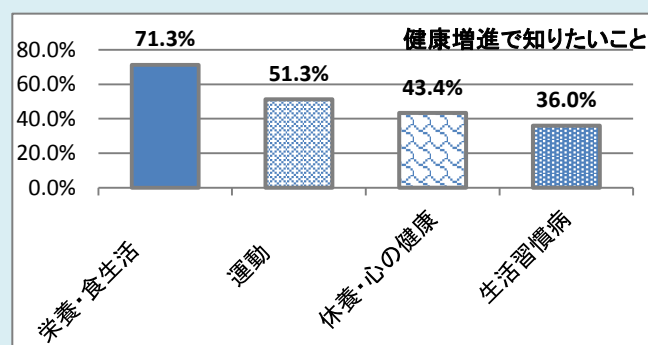
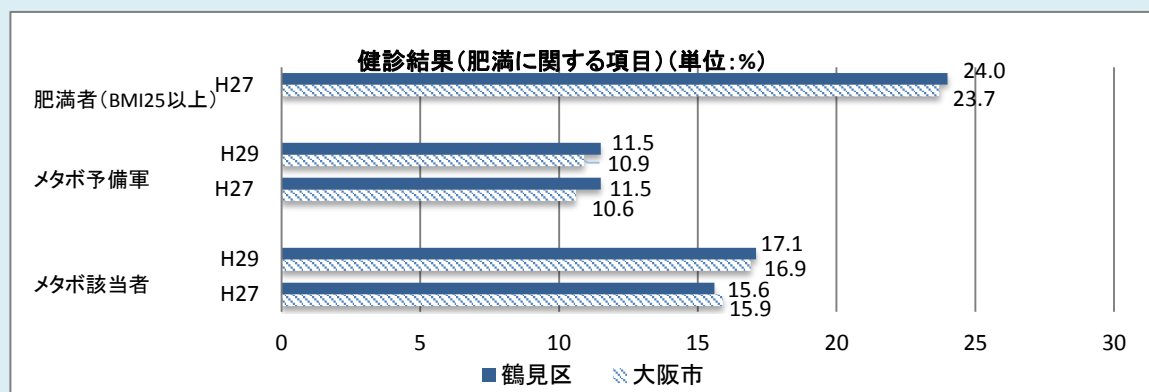
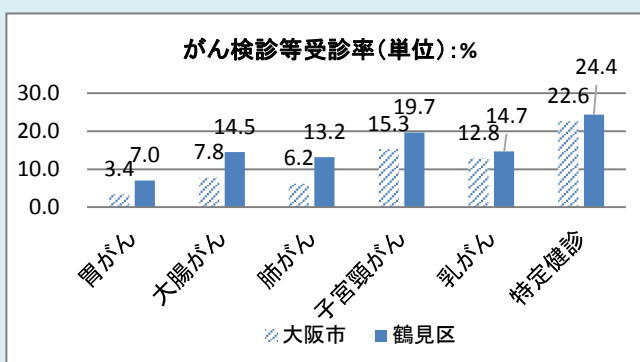
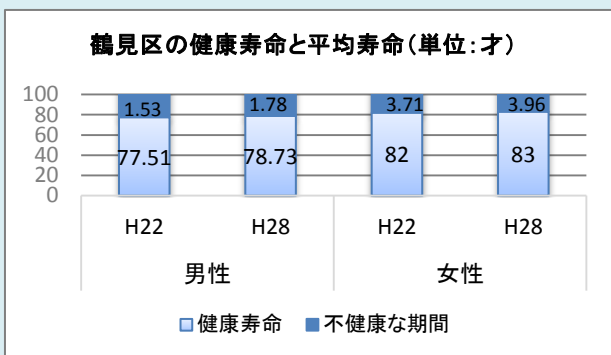
経営課題1

【だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり(健康づくり)】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

- ・だれもが地域で、自分らしく健康に安心して暮らし続けられる地域社会
- ・地域にかかわるすべての人が、共に生き共に支えあい、生活を楽しむ地域社会

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）



H30 区民アンケート結果

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・健康寿命、平均寿命ともに延伸していることにより、日常動作が自立していない状態(不健康な期間)が増えている
- ・生活習慣病の要因となる肥満者やメタボ予備軍・メタボ該当者の割合が、大阪市平均より高い。
- ・がん検診の受診率及び特定健診受診者(40歳～74歳)、は大阪市平均より高く、健康への意識は高いと考えられるが、生活習慣病の要因となる肥満者やメタボ予備軍・メタボ該当者の割合が、大阪市平均より高く、食生活の乱れ、運動不足の区民が多いと考えられる。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・死亡原因1位である癌や循環器疾患、糖尿病などの生活習慣病改善策として、肥満やメタボ該当者、メタボ予備軍への働きかけが重要である。
- ・健康に関心を持つ区民を増やし、正しい「食生活」、適度な「運動」について継続して取り組んでもらうための働きかけ、機会の提供が必要である。

自己評価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 1-2 【健康づくりへの支援】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 区民一人ひとりが自らの健康に関心を持ち、継続的な運動や食生活の改善など、健康づくりに取り組んでいる状態。	戦略（中期的な取組の方向性） 生活習慣病の原因でもある、肥満者やメタボ該当者の減少に向けた「栄養・食生活」「運動」に関する知識を筆頭に、様々な健康に関する情報を提供する。また、健康づくりについて実践的に学べる機会を地域団体や関係団体と協力し提供する。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 令和2年度末までに、運動や食生活など、健康に関する取組みを行っている区民の割合60%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
			A:順調 B:順調でない
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	

具体的取組 1-2-1 【健康増進意識の向上】

		30決算額	277千円	元予算額	327千円	2算定見込額	343千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	<p>○地域のさまざまな取組みと連携し、区民の健康保持・増進を促すとともに、関係団体と協働し、運動習慣づくりや食生活の改善など、区民の自主的な健康づくりを進めるため、生活習慣病の原因でもある肥満者やメタボ該当者への働きかけとともに、幅広い年齢層が参加できるイベントを開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康まつりの開催 1回 食育フェスタの開催 1回 健康に関する講演会の開催 1回 ウォーキング教室の開催 1回 ウォーキングカレンダーの発行 食育に関する調理実習の開催 百歳体操の継続実施に向けた支援 地域・関係機関等と協働で健康づくりを実践できる場の提供 <p>○「栄養・食生活」「運動」「たばこ」等、様々な健康に役立つ情報発信に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報紙、ホームページ、フェイスブック、啓発チラシの配布（随時） がん検診・乳幼児健診など区が実施する保健福祉事業の際に啓発実施 	<p>「健康まつり」、「食育フェスタ」の参加者800人以上</p> <p>【撤退・再構築基準】 「健康まつり」、「食育フェスタ」の参加者300人未満であれば、事業手法を再構築する。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>【平成30年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康まつり・食育フェスタの開催(3月)(参加者1,100人) ウォーキング教室の開催 2回(10月・11月)(参加申込み述べ 108人) こころの健康講座「うつ病を知ろう～対応・予防について」(10月)(参加者 59人) 男性の料理教室(土曜開催)(12月)(参加者23人) 					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<p>①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>	—					
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)					

【様式2】

自己評価	当年度の取組実績		課題	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況			
			改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)		

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

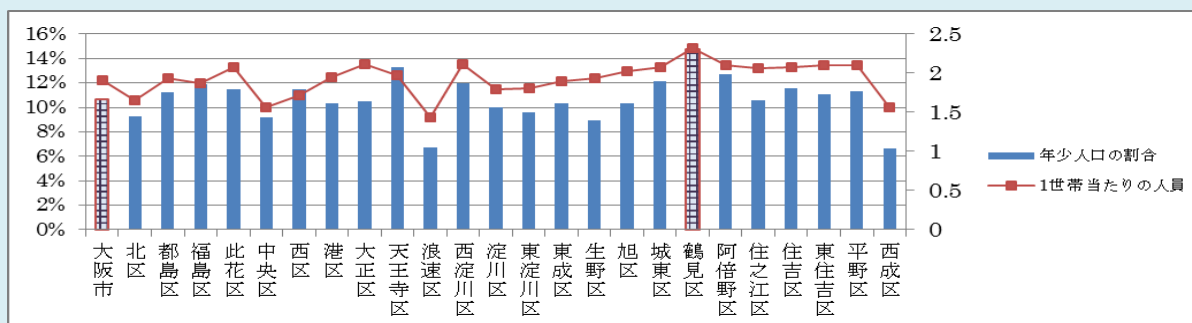
【子育てを応援するまちづくり】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

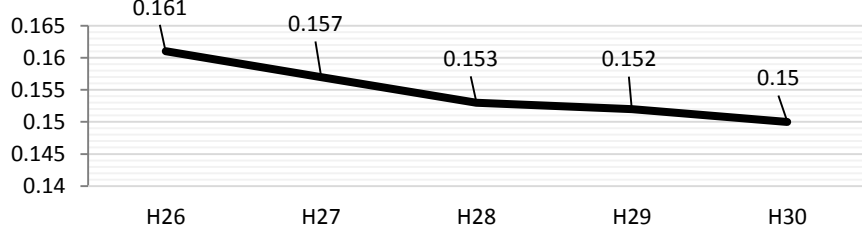
- ・地域で子どもたちが健やかに育ち、安心して子育てできるまち
- ・子どもたちの未来が生まれ育った環境によって左右されることなく、自分の可能性を追求できるまち

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・年少人口（15歳未満）の割合：15.0%（15.2%）、1世帯当たり人員：2.35人（2.37人）＜平成30年10月現在＞
 - ・児童相談件数：319件（619件）うち児童虐待の相談件数：139件（159件）＜平成30年度＞
 - ・待機児童数：0人（6人）、入所保留児童数：143人（101人）＜平成31年4月1日現在＞
 - ・こどもの居場所づくりに取り組んでいる事業者・団体：6団体・7か所（6団体・7か所）＜平成31年4月現在＞
- ※（ ）内は前年のデータ



鶴見区の年少人口の割合の推移（各年10月現在）



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・年少人口（15歳未満）の割合が市内24区中で最も高いが、年少人口の割合は減少傾向にある。
平成26年10月：16.1% ⇒ 平成30年10月：15.0%
- ・子育て世帯が多く居住しているが、家族形態の変化や地域におけるつながりの希薄化などに伴い、孤立している家庭や、子育てに対する不安感や負担感を持っている家庭もあり、今後増加することが見込まれる。
- ・新しい保育所の整備は進んでいるが、いまだ保育ニーズは高い状況にある。
- ・児童相談件数・児童虐待相談件数はともに減少しているものの、児童虐待は依然として発生している。
- ・不登校に陥っている児童生徒は、学力的に高校、大学に進学することが難しく、将来的に貧困に陥るリスクが高くなる。
- ・家庭の事情等により、学校から帰宅後等に行き場のない子どもが一定数存在する。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・不安感、負担感の解消に向け、つながりづくりや気軽に相談できる窓口の周知に努める必要がある。
- ・保育環境の充実に努めているが、入所保留児童が増加している。
- ・児童虐待防止啓発活動をより一層、推進する必要がある。
- ・要保護児童等の早期発見、早期支援が必要である。
- ・区内の小学校に、不登校に陥っている児童のほか、普通教室で授業等が受けられない児童が一定数存在する。
- ・こどもの居場所を区内で偏りなく増やす必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 2-1 【安心して子育てできる環境づくり】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	こどもは孤立感を感じておらず、保護者も子育てに対する不安感や負担感が減り、安心して子育てできていると感じている状態。 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 鶴見区は子育てしやすいまちだと感じている区民の割合：令和2年度までに80%以上		地域の関係機関や関係団体と連携し、保護者やこどもが交流・情報交換できる場の設定や相談支援の充実、子育て等に関する情報発信の強化、また、こどもの居場所の確保や学習支援など、安心して子育てできる環境づくりを進める。	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	A：順調 B：順調でない			
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 2-1-1 【切れ目のない子育て施策の推進】

		30決算額	1,288 円	元予算額	1,790 円	2算定見込額	4,979 円
計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関等と連携した、子育て層が気軽につどい、交流できる場の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・「愛 Love こどもフェスタ」の開催 ・「つるみっ子ルーム」の運営 ・子育てサロン、つどいの広場等への支援 ○ 子育てに不安感や負担感を持っている保護者等に対する相談、支援の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て講演会の開催 ・つるみっ子ルームや子育てサロン等での保育士等による育児相談等の実施 ・拡大子育て支援連絡会の開催 ○ 子育て関連情報の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・授乳やおむつ交換のできるスペースを備えた施設の周知（赤ちゃんの駅事業の普及啓発等） ・「子育てマップ」「愛 Love こどもニュース」「すくすくカレンダー」等の発行 ・フェイスブック、ツイッター等を活用した子育て情報の発信 ○ 区内保育施設情報の発信や保育環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所等情報フェアの開催 ・子ども園ネットワーク事業や私立保育園との意見交換会の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業の利用者で当該事業が役に立ったと答えた人の割合：85%以上 ・子育てに関する相談窓口を知っている子育て世帯の区民の割合：80%以上 ・子育てに関する必要な情報が入手できていると感じている子育て世帯の区民の割合：70%以上 <p>【撤退・再構築基準】 上記目標が60%未満であれば事業手法等を再構築する</p>				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成		前年度までの実績 【令和元年度実績】				
	戦略に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）				

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)	

具体的取組 2-1-2 【児童虐待防止対策】

30決算額 340 円 元予算額 361 円 2算定見込額 11,672 円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	○重大な児童虐待ゼロに向けた体制の充実 ・臨床心理士・保育士等の専門職を配備し、家庭訪問等による子育てに関する助言や関係機関へのつなぎ等の支援 ○児童虐待防止啓発、状況に応じた支援・相談対応 ・啓発活動 ・各種イベント・事業開催時に、通告や相談を促す内容のチラシ・啓発グッズを配布 ・ホームページ、ツイッター等での啓発 ・児童虐待防止に関する講演会の開催 ・関係機関との連携 ・拡大子育て支援連絡会の開催(再掲) ・主任児童委員、学校との連携強化、講習会の開催 ○要保護児童の早期発見 ・安全確認ができない未就園児等の全戸訪問	重大な児童虐待ゼロ 【撤退・再構築基準】 上記目標が達成されなければ事業手法等を再構築する 前年度までの実績 【令和元年度実績】 ・各種イベント等開催時に、通告や相談を促すチラシ・啓発グッズの配布 随時 ・児童虐待防止講演会の開催 2回(予定) ・拡大子育て支援連絡会の開催 1回(予定)((再掲) ・安全確認ができない未就学児等の全戸訪問 1回

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成	
戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)	

30決算額	4,441 円	元予算額	9,652 円	2算定見込額	9,652 円
-------	---------	------	---------	--------	---------

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	<p>○普通教室で授業等が受けられない児童を対象に、別教室等で個々の児童の課題に即した学習指導・支援を実施行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内12小学校 <p>○こどもの居場所づくり等を実施している事業者・団体に向けた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こどもの居場所ネットワーク会議」により、定期的な意見交換の場や、情報の提供を行うなど、「こどもの居場所」事業の定着に向けた、事業者・団体への支援 ・「こどもの居場所オープン会議」の開催 ・広報つるみや区役所ホームページ等を活用したこどもの居場所情報の発信 		<p>学習支援等により登校状況や学習面で効果が見られた児童の割合：70%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】 上記目標が40%未満であれば事業手法等を再構築する</p> <p>前年度までの実績</p> <p>【令和元年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの学習支援事業 区内12小学校 ・「こどもの居場所ネットワーク会議」の開催 1回 ・「こどもの居場所オープン会議」の開催 ・広報つるみ、区役所ホームページを活用した「こどもの居場所」情報の発信
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)	
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定(未測定)	

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

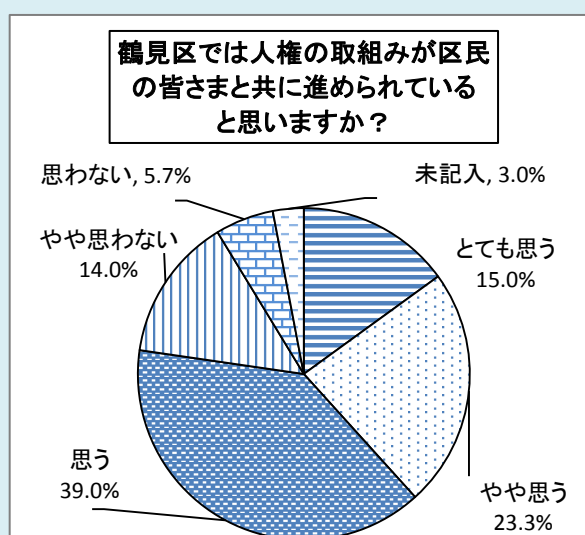
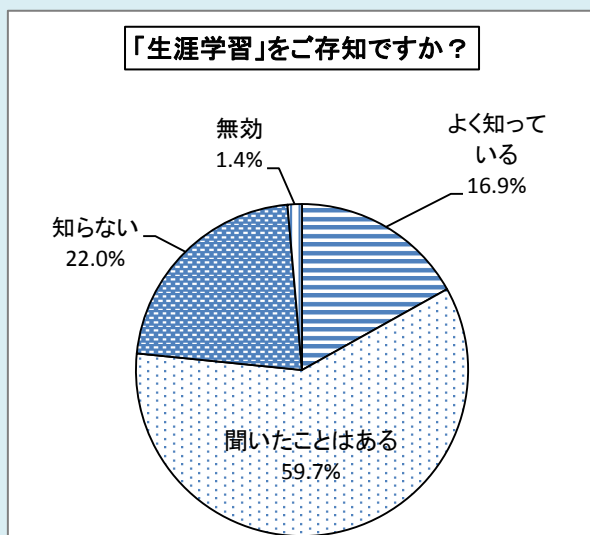
【まなびを応援するまちづくり】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間に念頭に設定＞

- ・あらゆる「まなびの場」が提供され、その成果が地域社会の活性化に活かされている社会
- ・区民一人ひとりが自尊感情を大切にし、お互いを思いやり、支えあい、人権を尊重できる社会
- ・安全で安心できる教育環境の実現及び学力・体力の向上などの教育課題が解決されている状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・H29年度区民アンケートにおいて、生涯学習について「よく知っている」と答えている区民の割合は16.9%である。
- ・H29年度の区民まつり人権啓発アンケートにおいて、人権の取組みが「区民の皆さんと共に進められていると思うか」の問いに関して、「とても思う」「やや思う」「思う」と答えている区民の割合は77.3%である。



- ・小学校・中学校とも、大阪市の平均正答率を上回った校数は鶴見区内校数の半数以上を占めているが、全国の平均正答率を上回った校数は半数以下である。（H30全国学力・学習状況調査結果より（対象：小学6年生・中学3年生））

		国語A	国語B	算数A (数学A)	算数B (数学B)	理科
小学校 (12校)	大阪市の平均正答率を上回った校数	6	10	7	7	9
	全国の平均正答率を上回った校数	2	4	6	5	1
中学校 (5校)	大阪市の平均正答率を上回った校数	3	3	3	4	3
	全国の平均正答率を上回った校数	2	0	1	2	2

- ・小学校(男女とも)では大阪市・全国の体力合計点を上回った校数は、鶴見区内校数の半数以下であり、中学校(男女とも)では大阪市の体力合計点を上回った校数は半数以上を占めているが、全国の体力合計点を上回った校数は半数以下である。

		男子	女子
小学校 (12校)	大阪市の平均正答率を上回った校数	5	4
	全国の平均正答率を上回った校数	3	2
中学校 (5校)	大阪市の平均正答率を上回った校数	3	3
	全国の平均正答率を上回った校数	2	2

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・7割の区民には情報は届いているが、生涯学習の認知度が高いとは言い難い状況である。
- ・文化、教養、スポーツ、ボランティア活動等、生涯学習は非常に幅広い学習活動であることから、各世代等に対応したまなび場が提供されることで、区民の主体的な行動につなげていくことができる。
- ・人権の取組みが区民とともに進められていると思う区民の割合は7割を超えてはいるが、主体的に人権について考え、自ら行動するところまではなかなか至らない。
- ・人権を身近にとらえることができるような事業の実施や、さまざまな機会をとらえた地道な人権教育・啓発活動によって、区民一人ひとりが主体的に考え、行動することができるようになる。
- ・学力や体力の向上に関して、教育委員会や学校が主体となり、各種施策・取組みを実施しているものの、複合的な事象が影響し、十分な改善に至っていない。
- ・大阪市として一元的に実施していくことが必要な施策は教育委員会が実施するものの、地域に身近な区役所が教育委員会とともに、保護者・区民などの声をくみ取りながら施策を展開していく分権型教育行政システムの構築によって、学校や地域における教育活動を活性化させることができる。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・多くの区民の学びたい気持ちを喚起し、地域のつながりづくりに寄与していただけるよう、幅広い世代に対応した学びの場の提供や、生涯学習が幅広い学習活動であることを啓発していく必要がある。
- ・区民一人ひとりが人権を身近にとらえ、お互いを思いやり、支え合うことの大切さを共有できるような人権教育の機会の提供や、人権啓発の取組みが必要である。
- ・ニア・イズ・ベターの観点から、学校・地域・保護者のニーズや意向を的確に把握したうえで、区役所の役割に応じた効果的な取組みを進めていく必要がある。

自己評価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 3-1 【まなびを通じたつながりづくり】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> 主体的に生涯学習活動に取り組む区民を増やし、「まなび」を通じたつながりが感じられる状態 人権について主体的に考え行動する区民が増えている状態	戦略（中期的な取組の方向性） ・生涯学習の認知度を高めるため、広報紙やホームページ、フェイスブックなどを活用したさまざまな取組みの情報発信に取り組む。 ・これまで以上に地域に根ざした生涯学習ルーム事業となるよう、生涯学習推進員の活動を支援する。 ・生涯学習推進員と連携し、主体的に生涯学習に取り組むきっかけとなるような学びの機会として、セミナーや一日体験教室を実施する。 ・人権啓発推進員と連携し、地域に根ざした人権教育、人権啓発の取組みを行う。 ・地域や各種団体等と連携し、一人一人が人権を身近なこととしてとらえ、意識を高めていけるようなセミナーや講座等を実施する。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 「まなびを通してつながりを感じている」と感じている区民の割合：令和2年度までに70%以上 「人権尊重のまちづくりが進んでいる」と感じている区民の割合：令和2年度までに70%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A：順調 B：順調でない	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない	

具体的取組3-1-1

【生涯学習の推進】

30決算額 2,239千円 元予算額 2,661千円 2算定見込額 2,714千円

計画	当年度の取組内容 ○学習機会を提供する取組み ・「生涯学習一日体験 学び舎つるみ」の実施 ・「生涯学習セミナー」の実施 ・「おもてなし茶会」の実施 ・「生涯学習ルームフェスティバル」の実施 ・「家庭教育支援講座」の実施、家庭教育支援出張型事業の実施 ・まなびの成果を“提供したい人”から“提供を受けた人”につなげる仕組みづくり「つるみまなびのわか」 ○学習機会の支援及び広報周知 ・生涯学習ルーム事業の運営支援 ・生涯学習ルーム活動の広報周知	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・各事業（生涯学習ルーム事業、学び舎つるみを除く）の申込参加者数：定員の80%以上 ・事業への参加者のうち「取組みを通じて新たな出会いや気づきがあった」と答える区民の割合：80%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%未満であれば、事業手法を再構築する。
	前年度までの実績 【平成30年度実績】 ・事業参加者数（参加率） 「おもてなし茶会&体験コーナー（11月）」 350人（117%） 「生涯学習セミナー」 110人（157%） 「おもてなし茶会（3月）」 230人（115%） 「生涯学習ルームフェスティバル（3月）」 710人 ・事業への参加者のうち「取組みを通じて新たな出会いや気づきがあった」と答える区民の割合 「おもてなし茶会&体験コーナー（11月）」 63.0% 「生涯学習セミナー」 95.9% 「おもてなし茶会（3月）」 71.2% 「生涯学習ルームフェスティバル（3月）」 75.0%	

中間振り返り	プロセス指標の達成状況 ①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況 ①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	

具体的取組3-1-2

【花と緑豊かな環境の推進】

30決算額 1,586千円 元予算額 1,498千円 2算定見込額 3,786千円

計画	当年度の取組内容 ○花と緑豊かな環境づくりの活躍の機会を提供する取組み ・区民に寄付を募り花博30周年記念植樹を実施（13か所） ・区の花の普及・啓発 ・種から育てる地域の花づくり活動事業の推進（通年） ・環境学習講座の開催（3回）	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） ・鶴見区が花や緑あふれるまちであると感じている区民の割合：60%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記目標が40%以下であれば、事業手法を再構築する。
	前年度までの実績 ・種から育てる地域のはなづくり活動事業 ・環境学習講座の開催（3回）	

中間 振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)	
当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
自己 評価	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)	

具体的取組3-1-3 【人権教育の推進】

		30決算額	852千円	元予算額	1,524千円	2算定見込額	1,494千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	○人権教育の機会の提供及び人権啓発の取組み ・「ヒューマンシアター」の実施 ・「人権啓発推進セミナー」の実施 ・「校下別人権学習会」の実施 ・「街頭啓発」をはじめとするあらゆる場面での啓発活動 ・パネル展&ミニシアターの実施	<p>・各事業(パネル展&ミニシアターを除く)の申込参加者数: 定員の70%以上 ・人権教育の取組みへの参加者のうち「人権に対する理解が深まった」「新たな気づきがあった」と回答する区民の割合: 80%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】 上記目標が50%未満であれば、事業手法を再構築する。</p>					
		<p>前年度までの実績</p> <p>【平成30年度実績】 ・事業参加者数(参加率) 「わくわく子どもフェスタ」 900人 「パネル展&ミニシアター」(8月、10日間) 81人、(12月、5日間) 63人 「人権啓発推進セミナー」 430人(86%) 「ヒューマンシアター」 370人(74%) 「校下別人権学習会(7月~3月)」 「街頭啓発(5月・12月)」 「地域人材育成講座」(10月) 49人(70%)、(2月) 30人(43%) ・人権教育の取組みへの参加者のうち「人権に対する理解が深まった」「新たな気づきがあった」と回答する区民の割合 「わくわく子どもフェスタ」 63.7% 「人権啓発推進セミナー(1月)」 67.6% 「ヒューマンシアター(3月)」 96.5% 「地域人材育成講座」(10月) 84.2%、(2月) 87.3%</p>					
中間 振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)					

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	

めざす成果及び戦略 3-2 【学校教育の支援】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>	戦略(中期的な取組の方向性)
	学校や地域、保護者の教育行政に関するニーズを把握し、学校と十分連携している状態 アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) 学校や保護者のニーズ、意向が教育行政に反映されていると思う校長・教頭の割合:90%以上(毎年)	区役所と学校や地域、保護者が連携し、児童生徒に必要な学習環境を整えるなど効果的な学校支援を進める。

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須						
	アウトカム指標の達成状況	<table border="1"> <tr> <th>前年度</th> <th>個別</th> <th>全体</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> A:順調 B:順調でない	前年度	個別	全体				今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	前年度	個別	全体						
戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない								

具体的取組3-2-1 【教育支援の充実】

30決算額 9,748千円 元予算額 10,123千円 2算定見込額 10,511千円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	○ニーズや意向を把握する各種取組み ・教育行政連絡会(学校と区役所による連絡調整・協議)の開催 <小・中学校 各学期1回ずつ> ・学校協議会への参加 <幼・小・中・高(20校園) 各学期1回ずつ> ・校長会・教頭会への参画 <概ね毎月1回> ○校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校への支援 ・教育活動サポート事業 ・民間事業者を活用した課外学習支援事業(中学校3校) (○発達障がいサポート事業に係るサポーター配置の充実) (令和2年度から教育委員会事務局所管事業と一元化) ○「夢・未来」創造事業(出前授業)の実施(小学校11校)	区役所からの支援が学力・体力・情操教育等の向上につながったと思う校長・教頭の割合:70%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が50%未満であれば、事業を廃止(再構築)する。 前年度までの実績 【平成30年度実績】 区役所からの支援が学力向上につながったと思う校長・教頭の割合:91.2% ・教育行政連絡会の開催 小・中学校各学期1回 ・学校協議会への参加 市立幼稚園・小・中・高校(20校園)各学期1回 ・校長会・教頭会への参画 毎月1回 ・校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校の支援 ・発達障がいサポーターを活用した小・中学校の支援

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題4

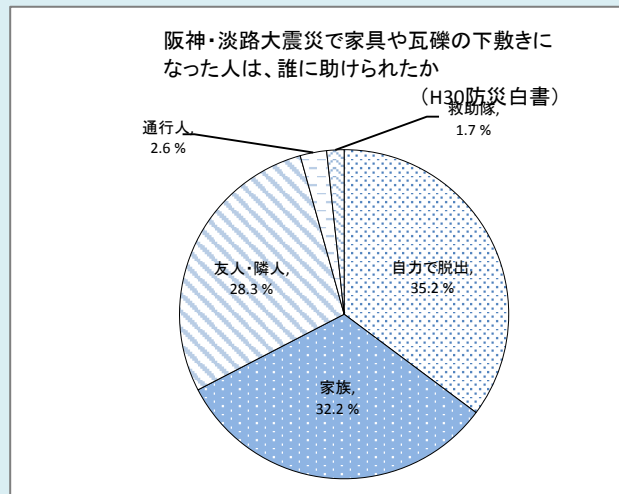
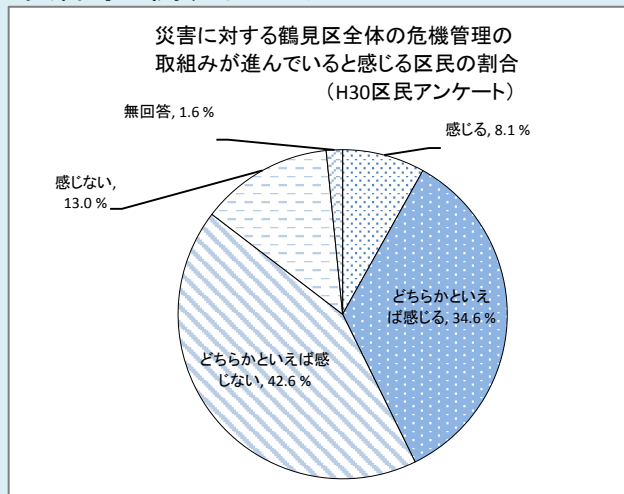
【安全なまちづくり(防災・減災)】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

だれもが日頃から高い防災意識を持ち災害への備えが整っている。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

◆災害等に関するデータ



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・個々人の防災意識を高めていく必要があり、昨年の台風21号や今年の台風19号で少しは高まったと思われるが、依然として公助に依存する区民も多いと考えられる。
- ・取組が進んでいると感じない、どちらかといえば感じないとした意見が半数以上あることについて、地域ごとに行われる防災訓練等に参加する区民が固定化されつつあることも要因の一つと考えられる。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・発災直後において、まずは自身(家族)が助かるための自助の重要性についての周知が必要。
- ・近所や地域の方々における救出・救助、初期消火、避難誘導、避難所開設などが自発的に行え、災害時に円滑に助け合いができるように、日常的な地域でのつながりづくりについて備える共助の視点を盛り込んだ防災意識の向上が必要。
- ・災害時に備えた防災資機材の充実や体制の整備・強化を図るとともに、区が行う取組みについて情報発信の強化に努めることが必要。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 4-1 【災害に強いまちづくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 防災意識を高め、地震や風水害等の災害に備えている区民を増やす	戦略（中期的な取組の方向性） ・区民、地域、区役所、関係機関、学校等が連携した訓練などを通じて、区全体の防災対策を進める。 ・地域の自主防災力を強化するための啓発や支援を行う。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 災害時の避難場所の確認や個人（家庭）での備蓄など、いざという時に備えている区民の割合：令和2年度までに80%以上	・地域コミュニティの活性化を図り、自主防災組織による自助・共助の視点を盛り込んだ防災活動が活発に行われるための仕組みづくりや支援を行う。 ・引き続き区災害対策本部の機能強化に向けた研修及び装備品の充実を図る。

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	A：順調 B：順調でない		

具体的取組 4-1-1 【防災意識の向上（自助）】

30決算額 798 千円 | 元予算額 1,159 千円 | 2算定見込額 1,586 千円

計画	当年度の取組内容 ○区民の防災意識の向上を図ることはもとより、自助とその後の共助の重要性につながる意識向上に向けた出前講座や広報紙への掲載を行う。また、転入者には市民防災マニュアル等を活用した啓発を引き続き行っていく。 ・出前講座の実施 ・安全・安心フェスタの開催 ・小学生・中学生を対象とした防災学習会の開催 ・高校生に対する継続した防災学習会の開催 ・広報つるみ防災特集号の発行 ・転入者セットとして市民防災マニュアルと防災マップを配布	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 安全・安心フェスタへの参加者：のべ5,000人以上 【撤退・再構築基準】 安全・安心フェスタへの参加者：2,000人未満であれば再構築 前年度までの実績 【令和元年度実績】 安全・安心フェスタ（10月）：約5,500人 出前講座（防災授業含む）：10回（10月現在） 広報つるみ防災特集号の発行（8月号） 【平成30年度実績】 安全・安心フェスタ（10月）：約5,000人 出前講座（防災授業含む）：20回 広報つるみ防災特集号の発行（8月号）
----	---	---

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定（未測定）	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定（未測定）

具体的取組4-1-2

【地域防災・減災力の向上(共助)】

30決算額 | 1,124 千円 | 元予算額 | 1,214 千円 | 2算定見込額 | 1,413 千円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	<p>○区民の共助に向けた防災意識の向上のため、地域と区役所、関係機関、学校等が連携したより実践的な訓練等を行う。また、訓練等へ新たな参加者を取り込むため、一般の方へ訓練実施を周知するとともに、訓練において地域の一般の方が参加しやすい訓練内容となるよう危機管理室地域防災力向上アドバイザーを活用した検討を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続した避難所開設運営訓練の実施 ・つるみんピックの開催 ・災害時地域貢献協力事業所の情報を地域と共有し、協力事業所に訓練参加を呼びかける。 	<p>・地域が行う訓練に参加し、役立ったと答えた区民の割合が:80%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】 地域が行う訓練に参加し、役立ったと答えた区民の割合が:50%未満であれば再構築</p>
	前年度までの実績	<p>【令和元年度実績】 避難所開設運営訓練等:2地域(10月現在) つるみんピック:(3月開催予定)</p> <p>【平成30年度実績】 避難所開設運営訓練等:12地域 つるみんピック(3月):雨天により途中中止</p>

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	<p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③: 撤退・再構築基準未達成</p>		
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア: 有効であり、継続して推進</p> <p>イ: 有効でないため、取組を見直す</p> <p>ー: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	<p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③: 撤退・再構築基準未達成</p>	
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア: 有効であり、継続して推進</p> <p>イ: 有効でないため、取組を見直す</p> <p>ー: プロセス指標未設定(未測定)</p>

30決算額 1,625 千円 元予算額 5,102 千円 2算定見込額 4,502 千円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	○災害時に備えた防災資機材の充実や体制の整備・強化を図るために、防災資機材として、暑さ対策を中心に防災資機材の確保・充実を図る ・災害時に備えた区役所(区災害対策本部)の整備・強化及び各地域の自主防災組織との連携強化 ・災害時の通信手段および災害情報を得るための手段の広報 ・区地域防災計画などの取組について情報発信の強化	区地域防災計画などの取り組みを知っていると答えた区民の割合が:60%以上 【撤退・再構築基準】 区地域防災計画などの取り組みを知っていると答えた区民の割合が:50%未満であれば再構築
		前年度までの実績 【令和元年度実績】 浄水器、ポータブル冷蔵庫を購入 【平成30年度実績】 トランシーバーの購入

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題4

【安全なまちづくり(防犯・交通安全)】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

犯罪や交通事故のない、だれもが安全・安心に暮らせるまちになっている。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

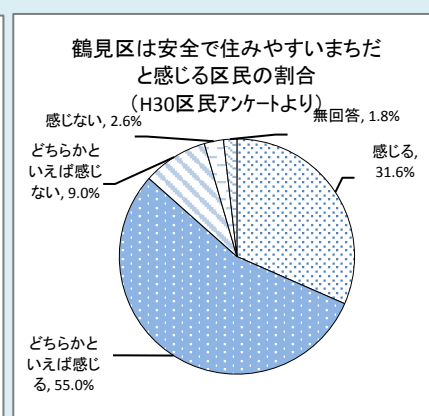
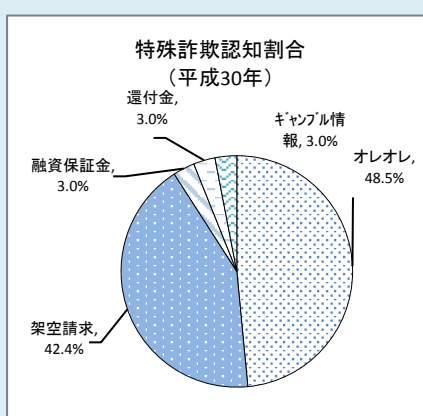
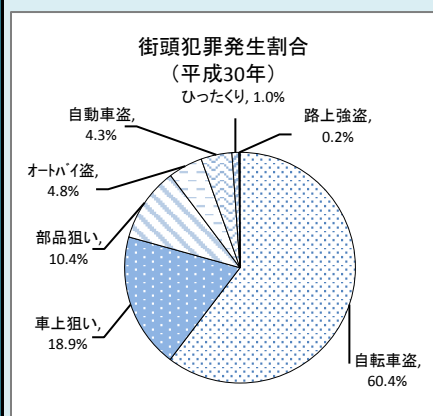
◆犯罪等に関するデータ

【鶴見区における街頭犯罪発生件数】

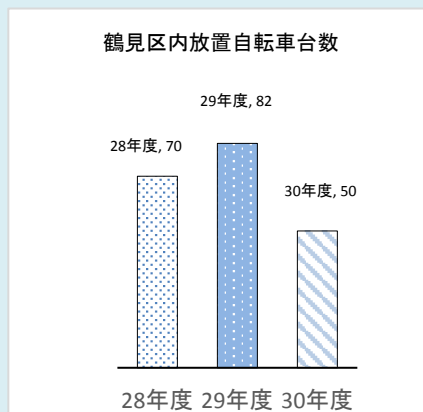
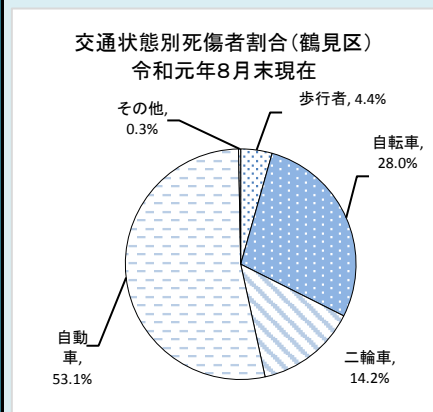
	路上強盗	自転車盗	車上狙い	部品狙い	オートバイ盗	自動車盗	ひったくり	合計
平成29年	1	465	196	112	62	12	6	854
平成30年	1	376	118	65	30	27	6	623

【鶴見区における「特殊詐欺認知件数」及び「被害金額」】

	オレオレ	架空請求	融資保証金	還付金	金融商品	異性紹介	キャンブル情報	合計	被害金額(千円)
平成29年	6	5	1	6	0	0	0	18	28,688
平成30年	16	14	1	1	0	0	1	33	52,148



◆事故等に関するデータ



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・鶴見区の街頭犯罪発生件数は、平成30年は623件で、平成29年の854件に比べて、231件の減の約27%と大幅に減少しているが、依然として街頭犯罪は発生しており、その中でも「自転車盗」の割合が増えている。
- ・鶴見区の特種詐欺認知件数は、平成30年は33件で、平成29年の18件に比べて、15件と約2倍近く増加しており、詐欺手口の傾向は変化している。
- ・交通状態別死傷者数を見ると、自転車に関わるものが約3割を占めていることから、自転車の運転マナーの低下と交通事故の関連性がうかがえる。
- ・放置自転車は減少しているものの、歩道を狭め、歩行者と自転車の事故原因となっている。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）
<ul style="list-style-type: none"> ・街頭犯罪の約半分以上を占める「自転車盗」をはじめとした、街頭犯罪を未然に防ぐための取組みを推進し、街頭犯罪発生件数の減少を図っていく必要がある。 ・特殊詐欺認知件数は平成30年に過去最悪の件数を更新し、特に高齢者が被害に遭っているため、特殊詐欺認知件数の減少をめざした取組みを推進し、詐欺手口の傾向や高齢者を意識した被害防止啓発を図っていく必要がある。 ・自転車利用者のマナーアップについての取組みを、引き続き推進する必要がある。 ・放置自転車の一掃に向け、引き続き啓発を行っていく必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; background-color: #FF8C00; color: white; padding: 5px; margin-right: 5px;">自己評価</div> <div style="flex-grow: 1; border: 1px solid black;"></div> </div>

めざす成果及び戦略 4-2 【街頭犯罪・交通事故の少ないまちづくり】

めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定>	戦略（中期的な取組の方向性）
安全で住みやすいまちと感じている区民を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴見区の街頭犯罪発生件数の減少に向け、区民、地域、関係機関、事業所などが連携・協働し、区民のより一層の防犯意識の向上につながるよう区を挙げての啓発活動を推進する。 ・街頭犯罪の半数以上を占める「自転車盗」について、重点的に取り組む。 ・放置自転車も含めた自転車利用者のマナー向上をはじめ、広く交通ルールが守られるよう、学校等の区内関係機関等と連携し、引き続き交通安全の普及・啓発活動に取り組む。
アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）	
安全で住みやすいまちと感じている区民の割合：令和2年度までに85%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須		
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	A：順調 B：順調でない				
戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない				

具体的取組 4-2-1

【地域・関係機関と連携した防犯対策】

30決算額 4,501 千円 元予算額 6,208 千円 2算定見込額 6,353 千円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	<p>○街頭犯罪発生件数の減少をめざしたさまざまな取組みを行い、防犯意識の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの設置や取替 27台 ・防犯推進委員会を中心に、各地域団体や警察署をはじめとする関係機関等が連携した区内一斉防犯活動 12回 ・区役所・警察署・各地域防犯組織（青色防犯パトロール隊、子ども見守り隊、防犯推進委員等）による合同連絡会の実施 1回 ・自転車の2重ロックを推進するため鍵の取付けキャンペーン 12回 ・ひったくり防止キャンペーン 12回 <p>○特殊詐欺認知件数の減少をめざしたさまざまな取組みを行い、特殊詐欺の手口の傾向や高齢者を意識した被害防止啓発を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊詐欺防止啓発の出張講座 ・青色防犯パトロール車を活用した注意喚起 ・防災行政無線を活用した認知状況の情報提供や注意喚起 	<p>・区で実施している防犯事業が鶴見区の犯罪抑止につながっていると答えた区民の割合：60%以上</p> <p>・街頭犯罪件数 前年比△5%</p> <p>【撤退・再構築基準】 区実施の防犯事業が犯罪抑止につながっていると回答が30%以下であれば事業手法を再構築する。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>【令和元年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内一斉防犯活動 7回 ・区役所・警察署・各地域防犯組織による合同連絡会 1回 ・鍵の取付けキャンペーンの実施 7回 ・ひったくり防止キャンペーン 7回 ・特殊詐欺出張講座の実施 13回 ・青色防犯パトロール車を活用した注意喚起 随時 ・防災行政無線を活用した認知状況の情報提供や注意喚起 5回 <p>【平成30年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの設置 24台 ・防犯プレートの設置 70枚

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	<p>①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③：撤退・再構築基準未達成</p>	
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア：有効であり、継続して推進</p> <p>イ：有効でないため、取組を見直す</p> <p>一：プロセス指標未設定(未測定)</p>

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	
	<p>①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③：撤退・再構築基準未達成</p>	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア：有効であり、継続して推進</p> <p>イ：有効でないため、取組を見直す</p> <p>一：プロセス指標未設定(未測定)</p>

30決算額 1,480 千円 元予算額 851 千円 2算定見込額 756 千円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	○交通事故防止や自転車マナーの向上をめざし、さまざまな啓発活動等を行う。 ・子育て層への交通安全教室の実施 ・園児への交通安全教室の実施 ・警察署、区内の高校生と協働した自転車マナーアップキャンペーンの実施 ・地域からの要望に応じ、高齢者交通安全研修会の実施 ・高校生への自転車マナーの啓発 ・地域・関係機関と協働した放置自転車追放啓発活動 ・区内駐輪場マップの作成、配布	・交通事故発生件数における自転車事故の割合30%以下（発生件数△30件） 【撤退・再構築基準】 自転車事故に関する目標が達成されなければ事業手法を再構築する。
		前年度までの実績 各年齢層への交通安全教室の実施 警察署、区内の高校生と協働した自転車マナーアップキャンペーンの実施 高校生への自転車マナーの啓発 地域・関係機関と協働した放置自転車追放啓発活動 区内駐輪場マップの作成、配布

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	